雨の降り方の程度

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難が出来るよう、雨の降り方と雨量の関係を知っておきましょう。雨が降りだしたら、どの程度の雨なのかを観察してみるのもよいでしょう。

やや強い雨

1時間に 10 ～ 20mm

地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。
長雨になりそうなら警戒が必要です。

強い雨

1時間に 20 ～ 30mm

傘をさしていても濡れてしまうほどのどしゃ降りの雨。
側溝などから水があふれる心配があります。

激しい雨

1時間に 30 ～ 50mm

バケツをひっくり返したような激しい雨。
道路規制も行われ、避難の準備が必要です。

非常に激しい雨

1時間に 50 ～ 80mm

滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。
河川があふれる可能性がある激しい雨です。

猛烈な雨

1時間に 80mm 以上

滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。
車や家屋が水に浸かる可能性が十分高く、厳重な警戒が必要です。

注意報・警報・特別警報

気象台より発表される様々な情報に注意しましょう。

大雨注意報	大雨警報	特別警報
1時間雨量：40mm 以上 土壌雨量指数基準：79	1時間雨量：60mm 以上 土壌雨量指数基準：99	48時間雨量：296mm 以上 3時間雨量：127mm 以上 土壌雨量指数基準：211
洪水注意報	**洪水警報**	特別警報では、重大な災害が起こるおそれが著しく大きくなります。
1時間雨量：40mm 以上	1時間雨量：60mm 以上	
強風注意報	**暴風警報**	土壌雨量指数とは、降雨による土砂災害発生の危険性を示す指標で、土壌中に貯まっている雨水の量を示す指数です。
平均風速：11m/s 以上	平均風速：20m/s以上	
注意報では、災害が起こるおそれがあります。	警報では、重大な災害が起こるおそれがあります。	

気象注意報・警報は気象庁のホームページから確認できます。
http://www.jma.go.jp/jp/warn/

普段からの備え

避難場所や避難経路を確認しておきましょう

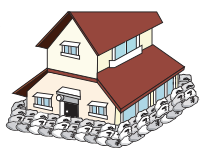
ハザードマップには、災害発生時に避難する場所が示されています。
自分の地区の避難場所がどこなのかを確認し、避難経路を実際に歩いてみて、危険な箇所がないか調べておきましょう。

大雨や台風に備えて家のまわりを点検・整備

家のまわりに吹き飛ばされそうなものはないか、雨戸や雨どいなどがいたんでないか確認しておきましょう。また、家の前の排水溝がつまっていないかなどの確認も必要です。

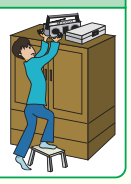
土のうで浸水防止

土のうを積み上げることで、水や土砂の流入を防ぐことができます。
水害時には、浸水を防ぐ応急対策として必需品です。



室内の防災対策

家電製品や大切なものは、浸水して被害を受けないように高い所や二階に移動しましょう。



非常持出品

大きな災害のときは、水道、ガス、電気や電話などのライフラインが途絶えることがあるので、数日は自力でしのげる備えが必要です。
万一の際に備えて、ご家庭で次のようなものをそろえ、定期的にチェックしておきましょう。

必需品

- □ 懐中電灯
- □ 携帯ラジオ・予備電池
- □ 飲料水（ミネラルウォーター）
- □ 非常食
  - □ 乾パン・缶詰
  - □ 携帯用の缶切りやナイフ
  - □ 紙コップ・紙食器　など
- □ 貴重品
  - □ 現金
  - □ 預金通帳
  - □ 印鑑
  - □ 健康保険証
  - □ 免許証（身分を証明するもの）
- □ タオル
- □ 救急セット
  - □ ガーゼ
  - □ 脱脂綿
  - □ ばんそうこう
  - □ 目薬
  - □ きず薬
  - □ 胃腸薬
  - □ 包帯
  - □ かぜ薬
  - □ 消毒液　など
- □ 衣類・下着類
- □ ロープ

必要に応じて準備しておくもの

- □ 携帯電話
- □ ティッシュ
- □ 軍手
- □ ろうそく
- □ マッチ・ライター
- □ 雨具
- □ ほ乳瓶・粉ミルク
- □ ドライシャンプー
- □ ヘルメット（ずきん）
- □ レジャーシート
- □ ラップ
- □ ビニール袋
- □ 洗面用具
- □ 石けん
- □ 介護用品
- □ 紙おむつ

など

避難時の心得

避難の呼びかけに注意しましょう

危険が迫ったときには、町役場や消防署から避難の呼びかけをすることがあります。
呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。

避難する時は、動きやすい服装で２人以上

避難する時は、動きやすい服装で、２人以上での行動を心がけましょう。
長くつは水が入ると歩きにくくなるため、はきなれた運動靴で避難しましょう。

水中で歩ける水の深さは、男性 70cm、女性 50cm 以下

水中で歩ける水の深さは、男性で 70cm 以下、女性で 50cm 以下となります。
水深が深い時は無理に避難しようとせずに、近くの高い建物などで救助を待ちましょう。

水面下は危険です

水面下にはどんな危険が潜んでいるかわかりません。特に内水はん濫が発生すると、マンホールのふたが外れることがあり大変危険となります。避難時には長い棒や杖などで安全を確認しながら歩きましょう。

車での避難は控えましょう

自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになりますので、特別の場合を除きやめましょう。

逃げ遅れたときは

もし逃げ遅れたときは、自宅の２階以上や近くの高い建物で救助を待ちましょう。無理に避難所へ移動しようとするとかえって危険なことがあります。

災害時要援護者への協力

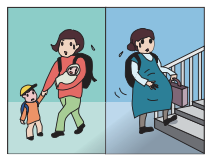
災害時要援護者とは、災害時において、適切な防災行動をとることが困難な人々です。このような方々は大きな災害のとき、情報把握・避難・生活の確保などが困難な状況におかれます。みんなで協力し合い、積極的に支援するよう心がけましょう。

からだの不自由な人には

それぞれの人に適した誘導方法を確認しましょう。車いすの場合は、必ず３人以上で協力し、階段を上がるときは前向きに、下がるときは後ろ向きにして、恐怖感を与えないように配慮しましょう。

乳幼児・妊婦の人には

乳幼児はひもなどで背負い避難しましょう。
また、お腹の大きな妊婦さんは身体が思うように動かないので気を配りましょう。



高齢者・病気の人には

複数の人で対応しましょう。
急を要するときはひもなどを使って背負い、安全な場所に避難しましょう。

外国人・旅行者の人には

外国語がわからなくても、身ぶり手ぶりで話しかけ、孤立させないことが大切です。

土砂災害

大雨や長雨によって、内水災害や洪水災害だけでなく地すべりや土石流、がけ崩れなどの土砂災害が発生する危険性が高くなります。
水害だけでなく、土砂災害についても注意しておきましょう。

がけ崩れ（急傾斜地崩壊）

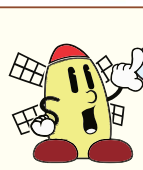
大雨や雪などで大量の水が地面にしみこんだり、地震のゆれによって地盤がゆるむことで土の抵抗力が低下し、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。
がけ崩れは、地すべりのように地面が少しずつすべり落ちるのではなく、一気に崩れ落ちてくるため、逃げ遅れる人が多く非常に危険です。雨がやんで数時間後に発生することがあるので、雨がやんだ後も注意が必要です。

地すべり

大雨や雪などで大量の水が地面にしみこみ、その水が水を通しにくい土の層の上にたまることで、その層より上の地面がたまった水の浮力で持ち上げられ、地面がかたまりのままゆっくりと下へすべり落ちていく現象です。比較的穏やかな斜面が広い範囲にわたりすべり落ちていきます。

土石流

山や谷の土や砂、石などの土砂が水とまじって河川や渓流などを、ふもとに向かって流れていく現象です。土石流は大雨が原因で起こることが多いのですが、雪国では雪どけ水が原因で起こることもあります。土石流はスピードが非常に速いため、流れの方向に逃げるのではなく、川から離れて高いところに避難しましょう。



※松伏町では、**土砂災害ハザードマップ**を作成しています。土砂災害危険地区についても確認をしておきましょう。

わが家の防災メモ

家族・親戚の連絡先

家族の名前	血液型	電話番号	会社・学校名	会社・学校の連絡先
	型			
	型			
	型			
	型			
	型			
	型			
	型			
	型			